

トランジションのコンセンサス形成に関するプロジェクト

研究分担者 清水俊明 順天堂大学小児科 教授
研究協力者 熊谷秀規 自治医科大学小児科 教授

研究要旨：

わが国では、小児期発症 IBD 患者のトランジションに関して、患者の自立を支援するツールが公開されているが、成人診療科と小児診療科間でコンセンサスが得られた見解を取りまとめたものはない。これまでの本班会議の調査・研究結果で得られた知見をもとに、患者がより良い診療を継続できるようコンセンサスステートメントを作成した。

共同研究者

岩間 達（埼玉県立小児医療センター）
萩原真一郎（大阪母子医療センター）
工藤孝広（順天堂大学）
高橋美智子（札幌厚生病院）
齋藤 武（千葉県こども病院）
国崎玲子（横浜国立大学附属市民総合医療センター）
内野 基（兵庫医科大学病院）
平岡佐規子（岡山大学病院）
長沼 誠（関西医科大学）
杉本 健（浜松医科大学）
三好 潤（杏林大学）
澁谷智義（順天堂大学）
久松理一（杏林大学）

A. 研究目的

小児の慢性疾患患者のトランジションは重要な課題である。わが国では、小児期発症 IBD 患者のトランジションに関して、患者の自立を支援するツールが公開されているが、成人診療科と小児診療科間でコンセンサスが得られた見解を取りまとめたものはない。これまでに本班会議で行われた IBD 患者のトランジションに関する調査・研究結果の知見をも

とに、患者がより良い診療を継続できるよう、体制を構築してコンセンサスステートメントを作成することを目的とする。

B. 研究方法

小児期発症 IBD 患者の診療に造詣が深いプロジェクトメンバーの間で、Zoom による Web 会議やメール審議を行い、コンセンサスステートメントを作成する。

（倫理面への配慮）

患者の診療データを扱うプロジェクトではないため IRB への申請と承認は要しない。

C. 研究結果

小児 IBD 医と成人 IBD で構成されたメンバーで「小児診療科から成人診療への転科」に関する 5 つのコンセンサスステートメントと、トランジションプログラム（移行医療）に関する 9 つのステートメントを作成した。

1. 小児診療科から成人診療科への転科 (transfer)

1-1. 転科によって医療の質に支障を来さないようにする。

1-2. 転科のタイミングは暦年齢に依らず、患者が適切な教育を受け、心理的・社会的に十分成熟した後とし、疾患活動性が高い時や心理状態が不安定な時の転科はなるべく避ける。

1-3. 移行医療（トランジションプログラム）に取り組み、準備と評価とを十分行った上で転科する。

1-4. 転科に際して、小児診療科医は適切な診療情報提供書を作成する。

1-5. 転科にあたって、小児診療科と成人診療科とが連携して患者の診療に当たる機会・期間（オーバーラップ）を持つことが望ましい。

2. 移行医療への取り組み（トランジションプログラム）

2-1. 移行医療への取り組みは出来るだけ早く始める。

2-2. 領域横断的な多職種（医師，看護師，公認心理師，MSW 等）で構成されるチームを編成し、「移行外来」の設置など移行支援に係る措置を講じる。

2-3. 患者・家族と医療従事者は、将来、患者が自立してヘルスリテラシーを獲得する必要があることを常に意識し、移行支援ツールを用いて準備状態を把握する。

2-4. 患者家族と医療提供者は、患者への過保護や過干渉を避ける。

2-5. 転科の前に、小児診療科と成人診療科との診療スタイル・内容の差異を説明する。

2-6. 医療費や公費助成制度について情報を提供する。

2-7. 患者の自立支援のため、教育と就労の支援を行う。

2-8. 小児から成人にかけてのシームレスな IBD 診療において、生物学的製剤等の適切な導入時期を逃さないことは重要である。

2-9. 成人診療科医は、小児期発症 IBD 患者の特徴を理解して診療するよう努める。

D. 考察

小児期発症 IBD 患者の移行医療における医療従事者間のナレッジギャップや、小児 IBD 医と成人 IBD 医の良好な連携などがステートメントに盛り込まれた。

E. 結論

このコンセンサスステートメントが実地医療における適切なガイドライン作成のための基礎になることが期待される。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Kumagai H, Shimizu T, Iwama I, Hagiwara S, Kudo T, Takahashi M, Saito T, Kunisaki R, Uchino M, Hiraoka S, Naganuma M, Sugimoto K, Miyoshi J, Shibuya T, Hisamatsu T. A Consensus Statement on Healthcare Transition for Childhood-onset IBD Patients. *Pediatr Int* (under submission).

熊谷秀規. 成人移行支援の二面性：炎症性腸疾患. *小児内科* 53(8), 1252-1256, 2021.

2. 学会発表

熊谷秀規, 清水俊明. ワークショップ AYA 世代の IBD 診療における工夫と問題点. IBD 診療における AYA 世代のトランジション（移行医療）. 第 12 回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 2021 年 11 月 26・

27日, 東京・Web.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし